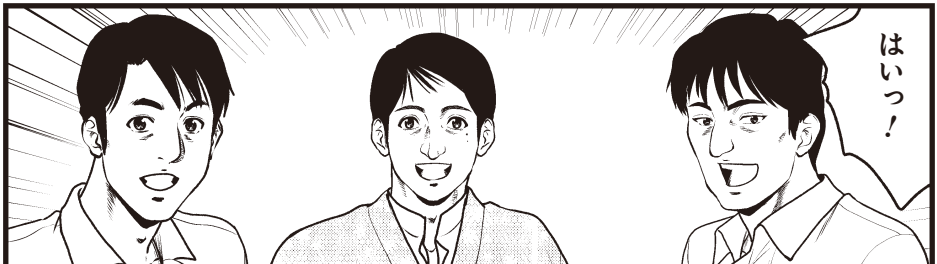
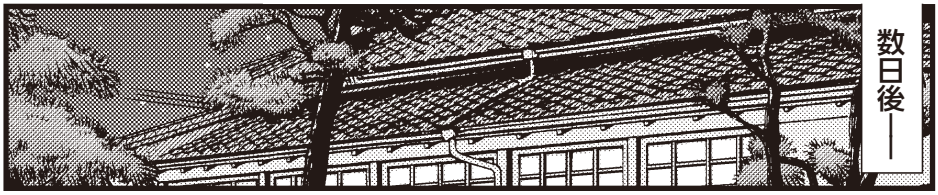
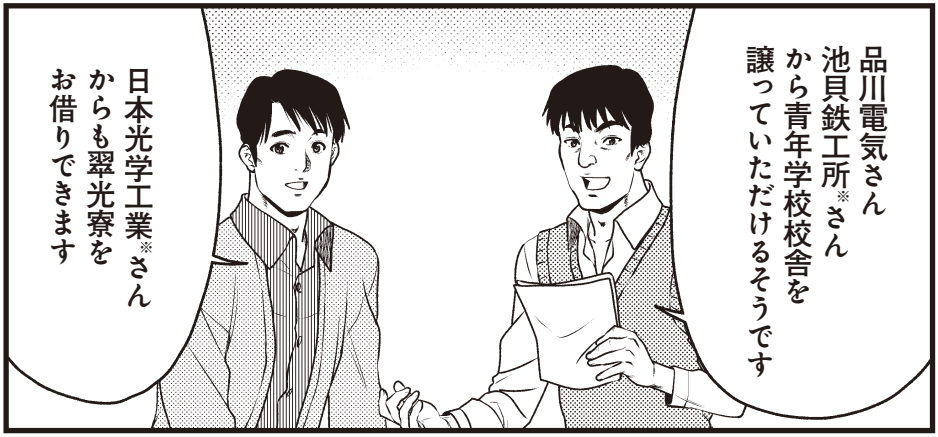
第４章
私学振興と社会に貢献する
人材育成をめざして
文教大学学園の誕生

※のちの第55代内閣総理大臣

※戦時下、軍の要請を受けて校舎の一部を「工場」として使用、生徒がそこで働いていた

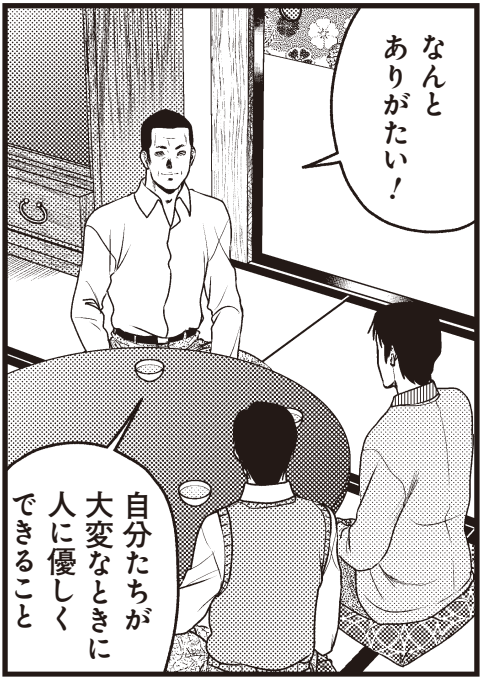


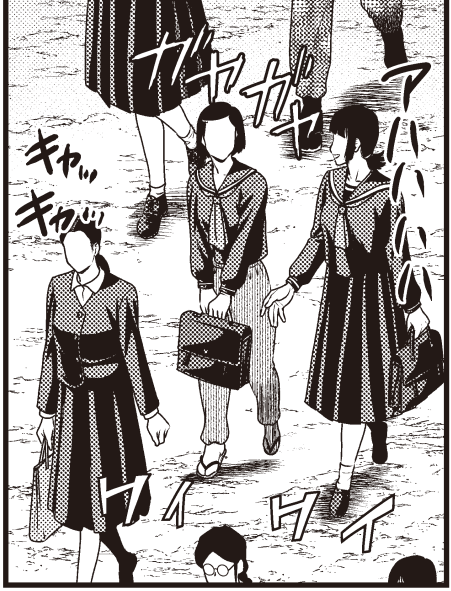




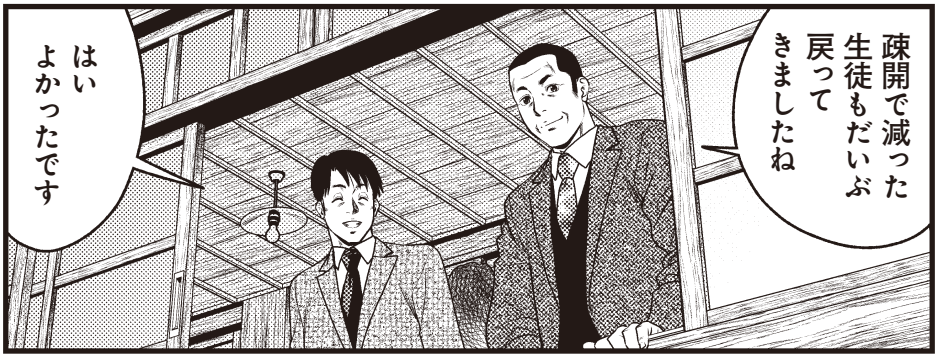
※現・株式会社ニコン

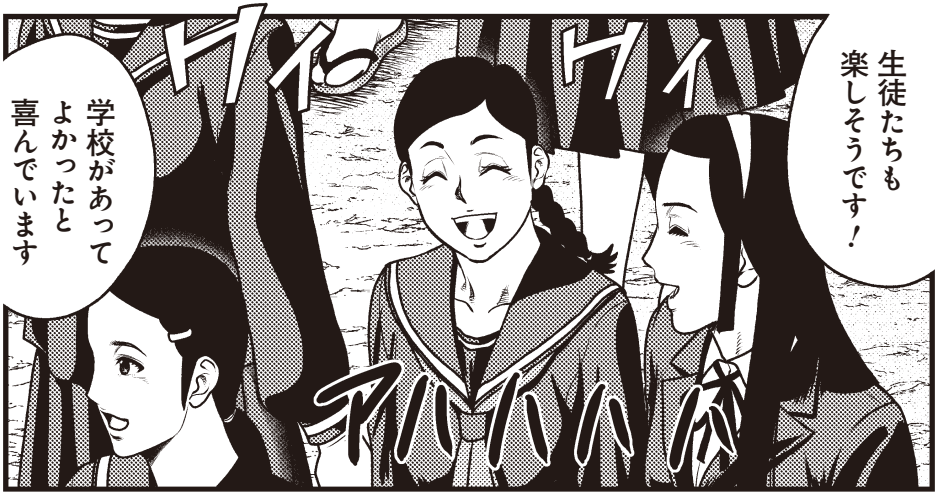
※現・株式会社池貝




ガヤガヤ
アハハハ
キャッ
キャッ
ワイ
ワイ

石川台分校
ワイ
ワイ
ワイ

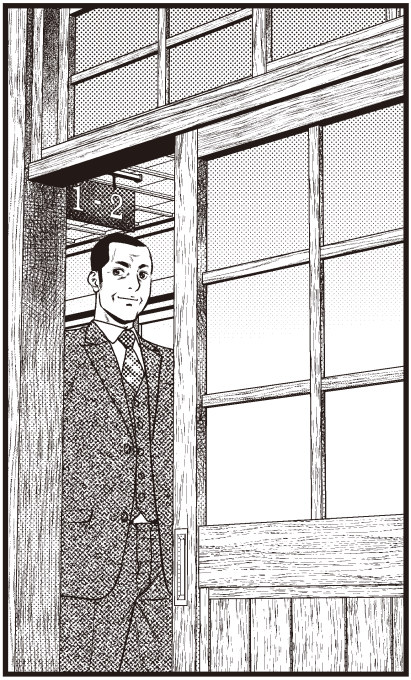

疎開で減った生徒もだいぶ戻ってきましたね
はいよかったです

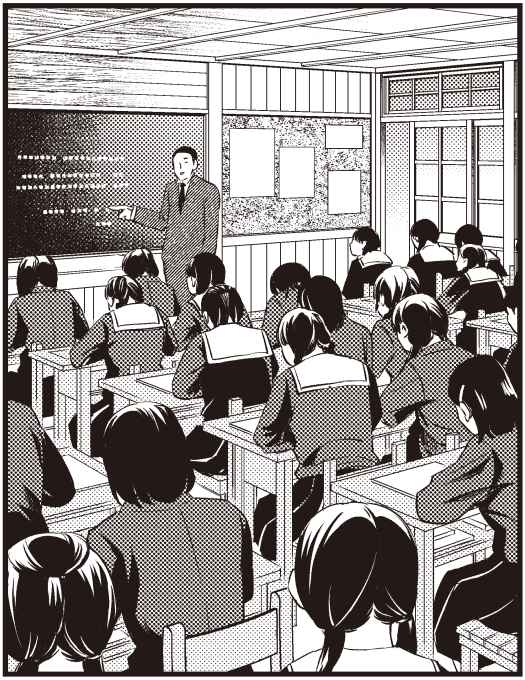

生徒たちも楽しそうです！
学校があってよかったと喜んでいます
ワイ
ワイ
アハハハ

1946(昭和21)年
小野は
第二代 立正学園理事長に
就任

立正学園
高等家政女学校と
立正学園
高等女学校の
校長になる

第二代 理事長　小野光洋





人は学ぶことによってわかり合える

個人の成長が社会を成長させていく

この精神がこれからの時代必要とされるはずだ

立正学園の地位…

私学自体の存在価値を向上させていくべきだ

自分ができることはなんだろう

馬田先生なら何をしていた…

考えた小野は活動の場を広げていく

私学復興に尽力し政界進出をめざす

1946(昭和21)年東京都私学協会の常任委員

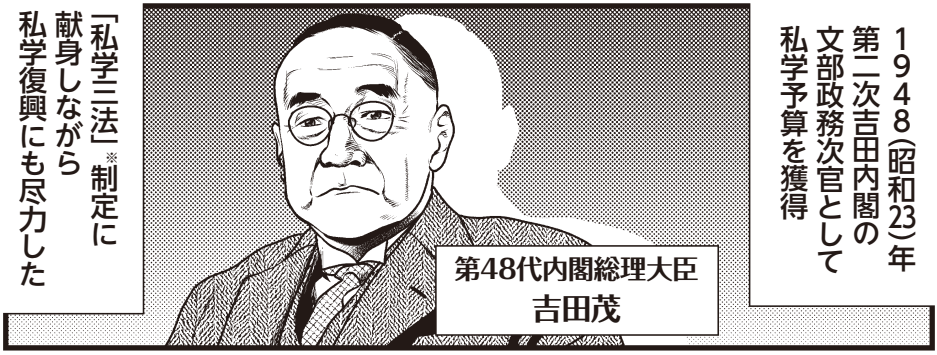
私学振興のために政治の世界へ!

日本私学団体総連合会第三部長に就任

1947(昭和22)年日本私立中学高等学校連合会理事長に就任

1947（昭和22）年
第一回参議院議員選挙に出馬
初当選

文教委員
予算委員として
活躍



1948（昭和23）年
第二次吉田内閣の
文部政務次官として
私学予算を獲得

「私学三法」※制定に
献身しながら
私学復興にも尽力した

※私立学校法（1949年公布）、私立学校振興会法（1952年公布）、
私立学校教職員共済組合法（1953年公布）を示す

しかし 翌年
法隆寺金堂
壁画焼失の
責任により

文部大臣とともに
文部政務次官 辞任
しかし その後も
議員を続け

小野は法案成立をめざし――

私学の自主性の確保と公共性を高めることが目的です

自主性とは特徴ある教育自由な教育です

そして公共性とは社会で活躍する人材を輩出し広く社会に貢献することです！

強いメッセージを込めた――

そして1949(昭和24)年12月

…過半数と認めます

よって本案は可決せられました

パチ パチ

パチ パチ パチ

「私立学校法」が成立その第一条は

小野の発言内容がほとんど盛り込まれた

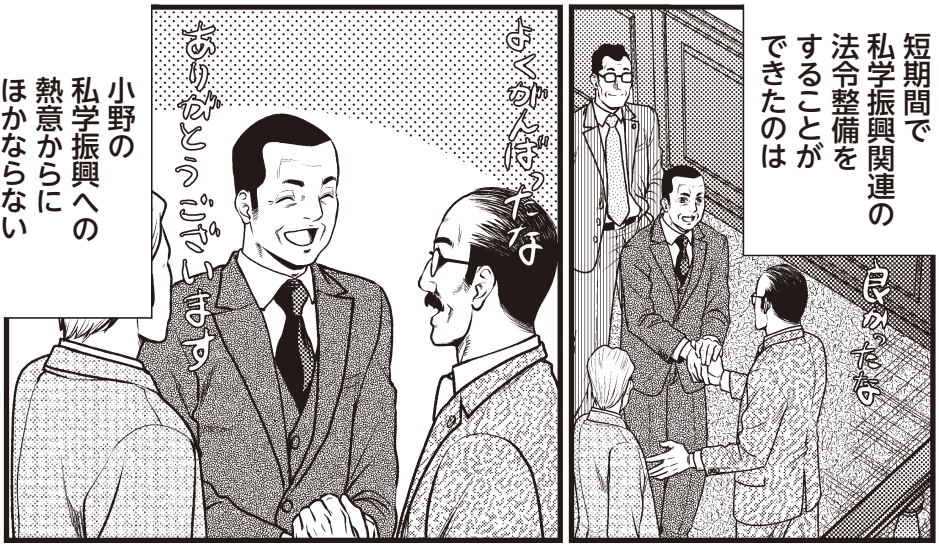
「第一条 この法律は私立学校の特性にかんがみ

その自主性を重んじ公共性を高めることによって

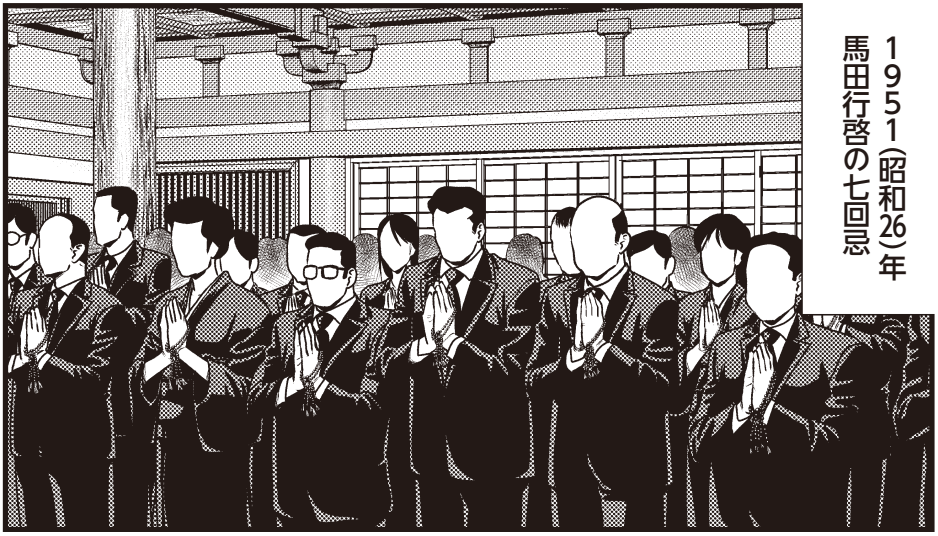
パチ

パチ パチ

私立学校の健全な発達を図ることを目的とする」

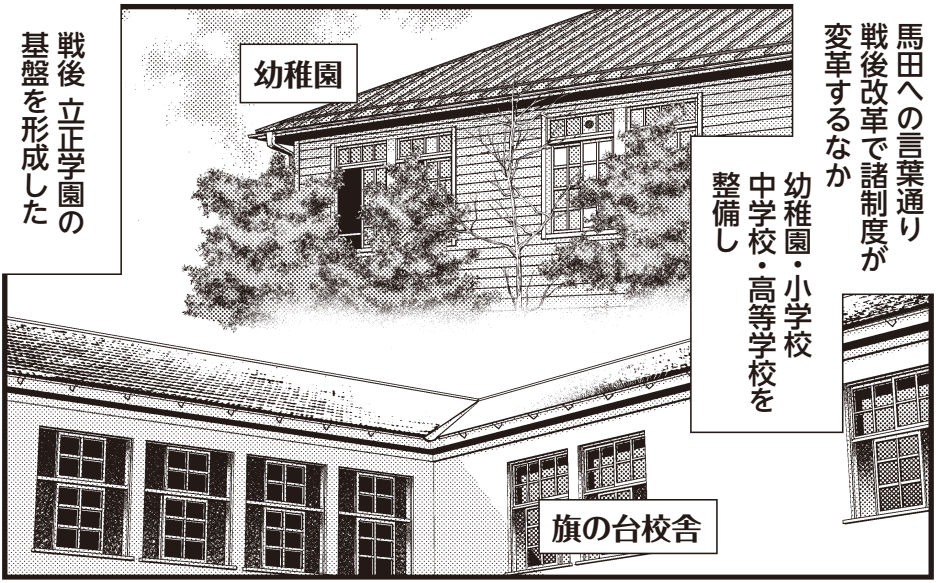


※1951年、私立学校法により財団法人立正学園は学校法人立正学園に組織変更した



馬田先生は私共の尊敬する大切な友人であり師であり指導者であり
また偉大な教育者であります

立正学園をさらに発展させるためにも幼稚園から大学までの「総合学園」の設置をめざしていきます


馬田への言葉通り戦後改革で諸制度が変革するなか
幼稚園・小学校中学校・高等学校を整備し
戦後 立正学園の基盤を形成した
幼稚園
旗の台校舎

そして――
1953(昭和28)年
立正学園女子短期大学の設置が認可され小野が初代学長に就任

では そのように お願いします
承知しました
學長 小野光洋

念願であった「総合学園」が実現
パタン
失礼します

ここまで来た
もうひと段階4年制大学の設置までたどり着きたい――

1954(昭和29)年
日本私立短期大学
協会副会長に就任

東京都私立短期大学
協会初代会長にも
就任し

日本私立短期大学協会

- 北海道支部
- 東北支部
- 関東支部
- 東京支部（東京都私立短期大学協会）
- 中部支部
- 近畿支部
- 大阪支部
- 中国四国支部
- 九州支部

1956(昭和31)年には
東京都市ヶ谷の
私学会館の建設に尽力した

同年 春の褒章で
学園経営や
校長に就いて
教育振興に
寄与したとして
藍綬褒章※受章

※国や地方公共団体から依頼されて行われる公共の事務に尽力した人物に授与される

學長室
馬田先生を見習ったおかげでこんなに素晴らしい評価をいただきました
これは私だけでなく馬田先生の教えのもとにみんなで得たものです
ううっ
う…

う〜ん

うん

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ

どうも体の具合が良くないな…

ギシ…

あと少し…

もう少しあれば4年制大学設置にたどり着くんだ……

しかし!…

願いは叶わず

1965(昭和40)年
小野光洋
病気のため死去
67歳だった

死没日をもって
勲二等瑞宝章※を
追贈された

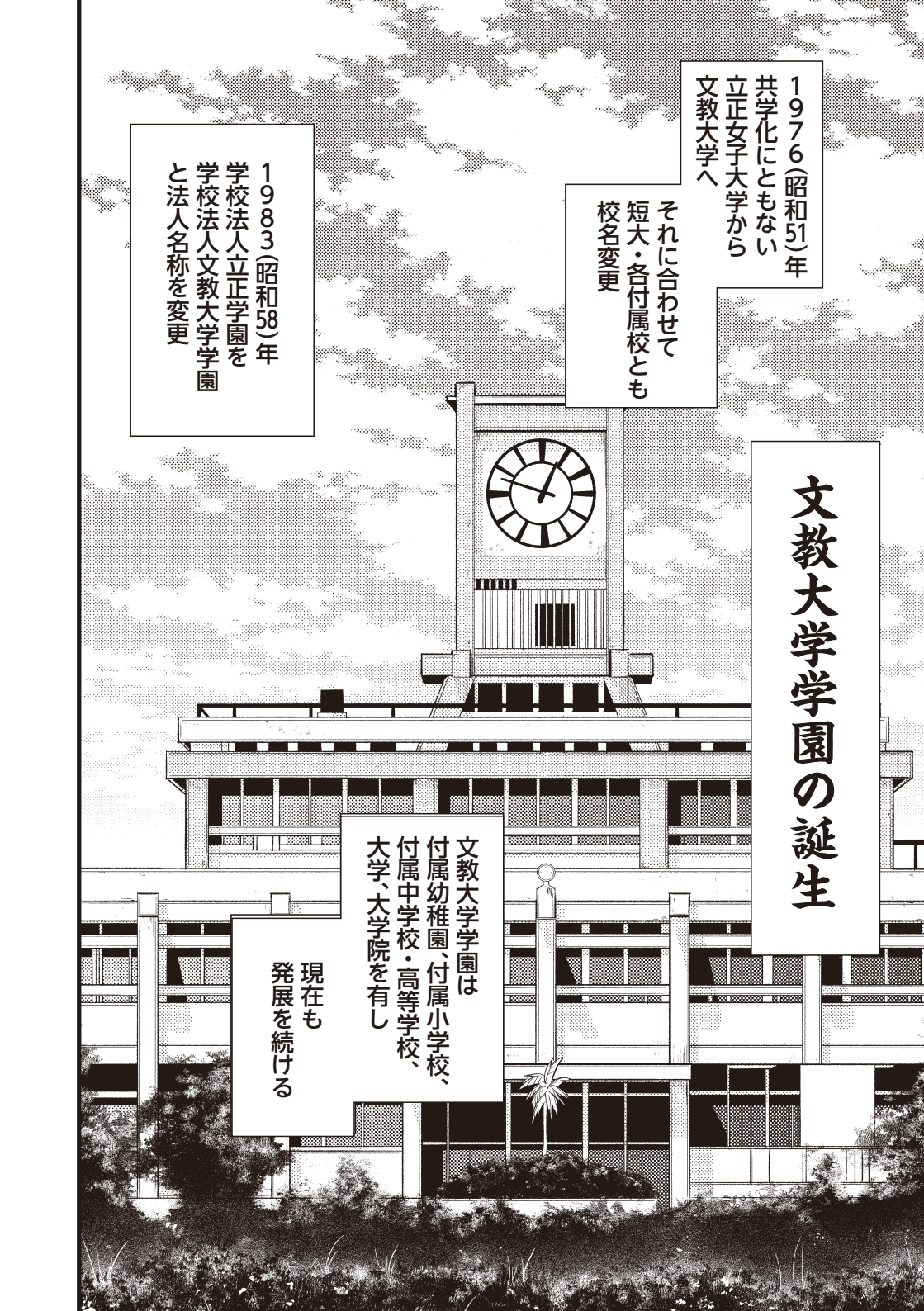
立正学園ほか6団体の合同葬

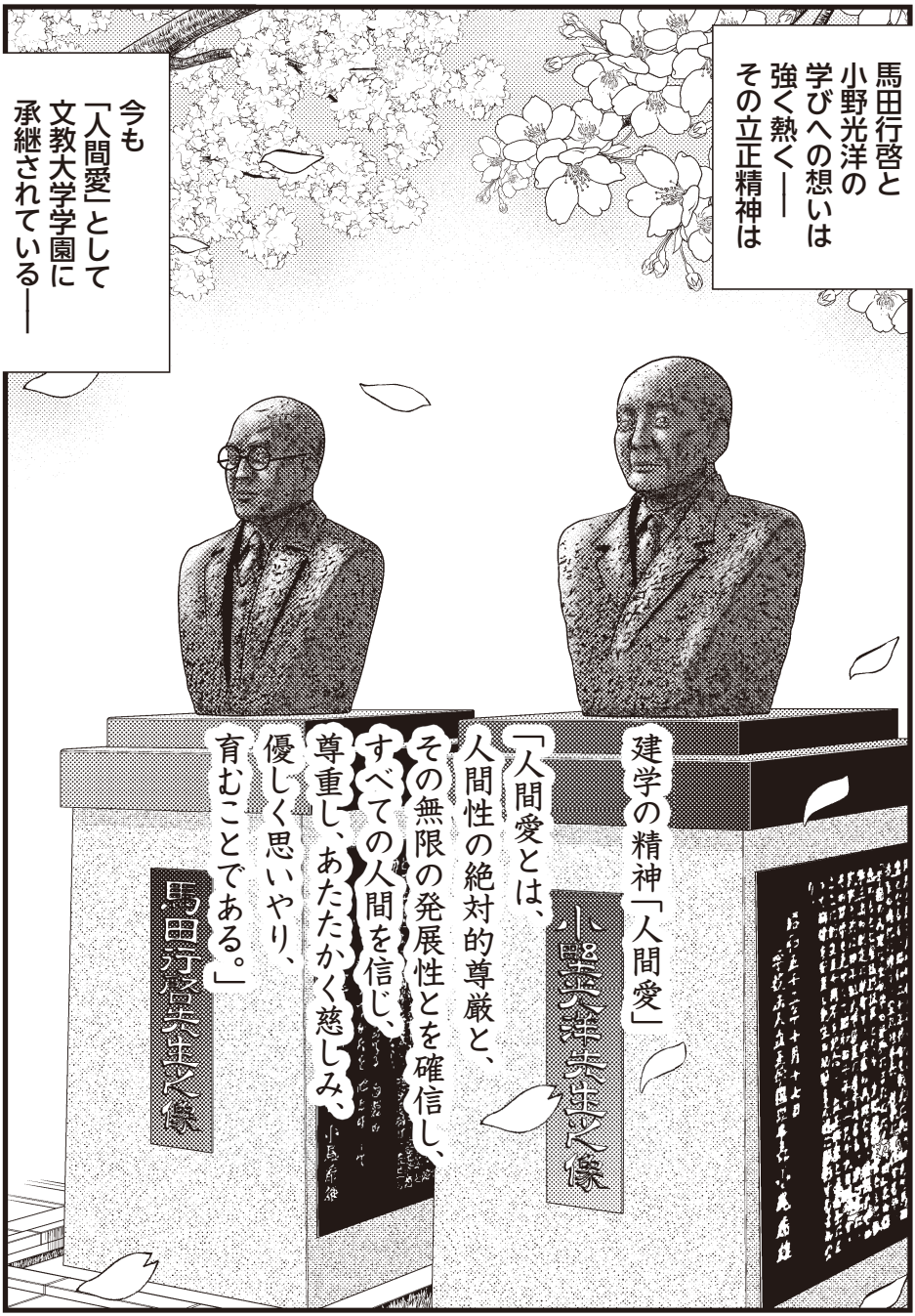
※授章理由は「日本の公教育に対する顕著な功績」

小野の死から1年
立正女子大学を設置

立正女子大学

小野の遺志は
引き継がれ


文教大学学園の誕生
1976(昭和51)年
共学化にともない
立正女子大学から
文教大学へ
それに合わせて
短大・各付属校とも
校名変更
1983(昭和58)年
学校法人立正学園を
学校法人文教大学学園
と法人名称を変更
文教大学学園は
付属幼稚園、付属小学校、
付属中学校・高等学校、
大学、大学院を有し
現在も
発展を続ける


馬田行啓と
小野光洋の
学びへの想いは
強く熱く――
その立正精神は
今も
「人間愛」として
文教大学学園に
承継されている――
建学の精神「人間愛」
「人間愛とは、
人間性の絶対的尊厳と、
その無限の発展性とを確信し、
すべての人間を信じ、
尊重し、あたたかく慈しみ、
優しく思いやり、
育むことである。」
小野光洋先生像
馬田行啓先生像

―おわり―

漫画　やまがき秀
編集協力　株式会社そらいろ

馬田行啓と小野光洋

教育に情熱を燃やした文教大学学園の創立者たち

2024年4月1日発行

発行・制作・監修
学校法人 文教大学学園
〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17
TEL 03-3783-5511㈹

編集・制作
株式会社出版文化社
東京・日本橋茅場町　大阪・新大阪　名古屋・金山

印刷
日経印刷株式会社

製本
株式会社渋谷文泉閣

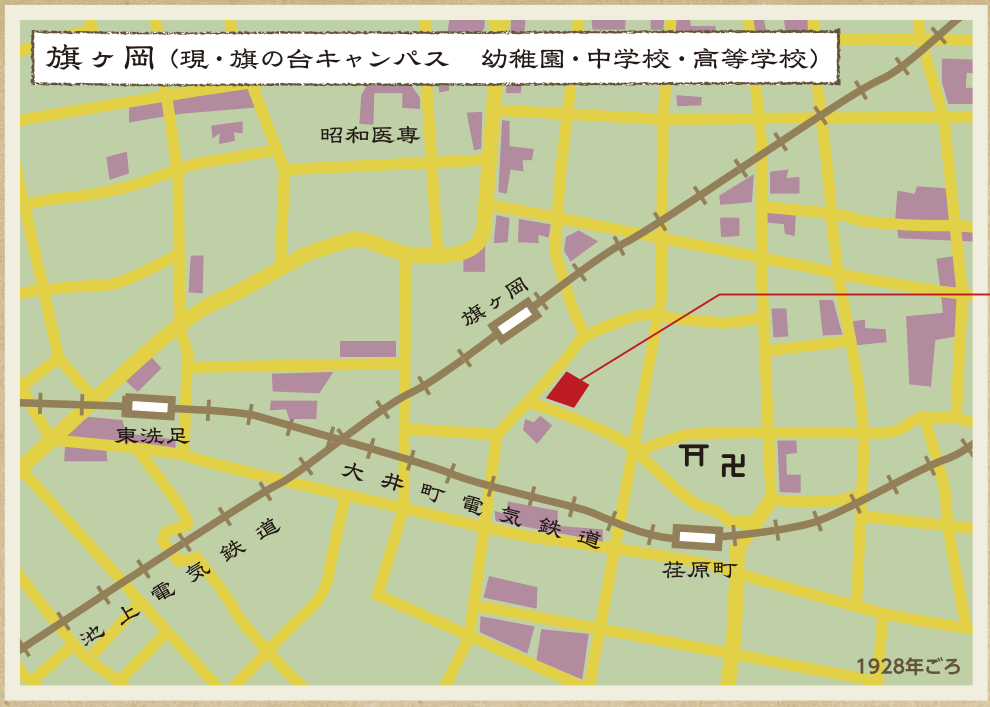
©2024 Hide Yamagaki, Bunkyo University Foundation.
ISBN 978-4-904035-91-7　　Printed in Japan

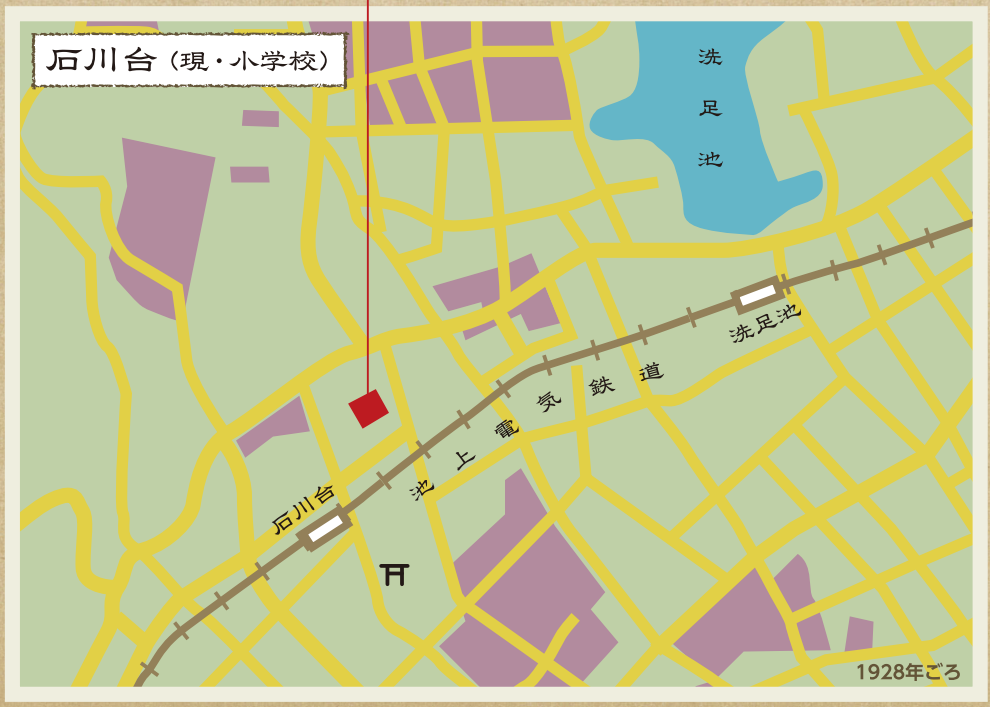
立正学園ができた
1928(昭和３)年ごろの地図に
今の文教大学学園の所在地を
合わせてみると…

大崎広小路
立正大学
戸越銀座
中原街道
東急池上線
第一京浜
環七通り
荏原中延
戸越公園
大岡山
北千束
東急大井町線
旗の台
中延
荏原町
長原
洗足池
石川台
N
現代（2024年現在）

桐ヶ谷（創立の地）

池上電気鉄道
立正大學
桐ヶ谷
立正女子職業学校
戸越銀座
1928年ごろ


旗ヶ岡（現・旗の台キャンパス　幼稚園・中学校・高等学校）
昭和医専
旗ヶ岡
東洗足
大井町電気鉄道
荏原町
池上電気鉄道
1928年ごろ


石川台（現・小学校）
洗足池
洗足池
池上電気鉄道
石川台
1928年ごろ

ISBN 978-4-904035-91-7
C0923